

資料 5班 さくらんぼグループ 指導計画

1. 活動名 山のぼり

2. ねらい

- (1) お互いに助けあいながら山にのぼり友情を育てる。
- (2) きまりを守り、自分かっとな行動をしないで楽しく行動させる。
- (3) 木や葉に触れ、自然を観察しながら初秋の特徴を知る。

3. 過程

時間(分)	活動・内容	指導上の留意点	指導分担
2	1. 整列をする	・班長に号令をかけさせ整列をさせる。 ・すばやく、無言で整列させる。	省
5	2. 先生のはなしを聞く	・お互いに助けあいながら山に登ることをわからせる。 ・食事係に弁当を配らせる。	
35	3. 見下し岩まで山のぼりをする	・教師の指示やきまり等を守り、勝手な行動をしないようにさせる。 ・遅れた友だちに声をかけ合ったり、助け合いながら山にのぼらせる。 ・危険なところを後ろの友だちに知らせるようにさせる。 ・元気に「ヤッホー」声をかけ合うようにさせる。 ・最後まで頑張ることを促すも、児童の実態に応じ、無理をさせないようにさせる。	
15	4. 昼食を食べる ・先生の話を書く	・弁当は、感謝の心でいただくようにさせる。 ・食前、食後のあいさつを班長にさせる。 ・早く終わっても席をはなれないようにさせる。 ・ゴミは、袋に入れ持帰るようにさせる。 ・下山前、諸注意を与えるようにする。	
30	5. 山をおりる	・教師の指示をよく聞き、足元に注意をしながらおりるようにさせる。 ・遅れた友だちを待つ配慮をしながらおりてくるようにさせる。 ・自由にあそばせる。 ・疲れた児童には休ませる。 ・静かに話をきかせる。	
10	6. 道具をあそぶ		
3	7. 整列をする		
	8. 話をきく		

四、交流教育の成果
 (一) 児童の変容
 児童が自主的・主体的な活動ができるように、混成のグループを編成した。中村第二小学校の児童たちからは、一緒に遊んでいるうちに手をつないだり、ゲームに参加させてくれるなど、思い

やりのある行動がみられた。また、励まし合ったり、泣いている児童の気持ちをくみとろうと顔をのぞきこみ、心配そうに見ているいたわりの情景もみられ、交流活動の成果が随所に見ることができた。

一方、初めのうちは、活力に満ちた中村第二小学校の大集団を目で追っていた養護学校の児童たちも、やがて、一緒に走ったり、駆けまわったりする中で、共に歓声をあげ、楽しいひととき十分に満足している様子であった。

(二) 児童作文
 ① 中村第二小学校 三年 K
 わたしは、ようご学校のさつちゃんともなかよしになりました。それは、子どもの村の交かん会のご学校には、さつちゃんのようにこ

きを手をつないで、いっしょに坂道を歩いたり、アスレチックで遊んだりしたからです。ハイキングコースの坂道を歌を歌い、つないだ手をつしよにふって登りました。そこには、長いすべり台がありました。
 (中略)
 さつちゃんの手は、ザラザラして小さかったのですが、わたしの手はいつもギョツとにぎつていました。わたしはつかれましたが、お姉さんになったような気がして、楽しくしてやらなくちゃと思つて歩いていきました。とつてもとつても楽しかったです。この交かん会で、わたしは、ようご学校には、さつちゃんのようにこ

(三) 保護者の意識
 ① 地域協力者(中村二小)の感想
 秋晴れの一日、私は、中村二小と養護学校の交流学習に同行しました。
 (中略)
 開会式で感じたことは、あいさつや細かいところまで指導が行き届いているということでした。一父兄として、子どもに対する姿勢を教えられた様な気がします。
 事前に交流があったということ、子どもたち同士は、打ち解け合い、広々とした野外での学習を精一杯楽しんでる様子には、教室での活動とは違った子どもの心の一面が見せられ、また、子どもたちの満足そうな表情から、交流教育の成果をはっ